

何度もやめようとしたが、どれもこれも上手くいかなかった

A氏（アルコール依存症）

高校を卒業して大学受験に失敗し、実家の稼業を継ごうと思った時から、家で隠れ酒をするようになりました。父のウイスキーをくすねて飲んでいました。グラス一杯にウイスキーを入れて喉に流し込む。まるで自分が強くなったように感じ、なんともいえない満たされた感じがしました。半年程して、家に居るのが嫌で、大学に行きたいと勉強させてもらい、大学に行かせてもらいましたが、ろくに学校にも行かず、アパートの部屋でカーテンを閉め切り、朝から浴びるように飲んでいました。親にお金を出してもらって、自分は部屋に籠って気絶するまで飲んでいました。そんな生活も半年で終わります。母が様子を見に来た事で発覚し、実家に連れ戻されました。また家の仕事を手伝いながら復学しようかと思っただけでしたが、自分のお酒はひどくなる一方でした。結局退学し、その後就職しましたが、お酒が止まることはありませんでした。仕事を頑張ろうとか、趣味を持とう、お金を持たないように等、考えられることは全部試してみましたが、結局はどれもこれも上手くはいきませんでした。その後、中間施設を経て、そこでまた精神病院へも入院し、自助グループに行きました。もう自分には何も残っていませんでした。仕事も減になり、生活保護を受けて、あれだけ自分の尻ぬぐいをしてくれていた母も、もしあの子がお酒で死ぬのであれば、それがあの子の寿命だと思って諦めますと言うようにまでなりました。飲み始めの頃から自分には生きていく価値がない、死んでしまいたいと思っていました。が、入院する前、施設の部屋の中で本当に死ぬのだと感じた時、死ぬことが怖く思いました。死ぬのが怖くて入院することを選びました。もうどうしたらいいのかわかりませんでした。生きることも死ぬことも出来ない、まさにどうしようもありませんでした。そこから飲まないで生きるための行動が始まりました。毎日AAに行け。仲間のその言葉に必死にしがみつきました。飲むならAAに行ってから。毎日毎日繰り返しました。そうすると、飲まない日が重ねられていきました。不思議としか言いようがありません。あれだけ必死になって止めようとして止められなかったものが、毎日仲間に会いに行くだけで、飲まないでいられました。飲まないで生きたいと本当に願った時、そこに解決は必ずあると信じています。